

平成26年度版
防災ガイドブック

災害

その時 わたしたちは

中学校

中学校

1年	組	番
2年	組	番
3年	組	番
氏名		

相模原市教育委員会



目次

はじめに

第1章 地震 —その時 わたしたちは—

- 1 地震が起きた時の基本行動
- 2 地震が起きたら
 1. 学校にいる時
 2. 登下校の途中
 3. 家にいる時
 4. 外にいる時
- 3 地震がおさまったら
 1. 学校にいる時
 2. 登下校の途中
 3. 家にいる時
 4. 外にいる時
- 4 地震の被害
- 5 地震への備え

第2章 風水害 —その時 わたしたちは—

- 1 風水害の基礎知識
- 2 避難の心得

第3章 災害への備え

- 1 応急処置の大切さ
- 2 119番通報のポイント
- 3 相模原市のとりくみ
- 4 災害情報を得る方法

保護者のみなさまへ

はじめに

自分の命は 自分で守る

大切なこと

冷静な判断

落ち着いた
行動

安全な
場所への避難

災害はいつ起きるかわかりません。普段から災害への備えを十分にして、いつ災害が起きても落ち着いて行動できるようにしておきましょう。

その時大切なことは「**自分の命は自分で守る**」ことです。どんなことが起きるのか予測しながら自分で判断して行動しなければなりません。

この本では、災害が起きた時にどのようにして自分の命を守ったらよいか書いてあります。この本を利用して災害から自分の命を守る方法を学習しましょう。



津波による家屋の倒壊
(大船渡市教育委員会より)



地震による火災
(大船渡市教育委員会より)

1

地震が起きた時の 基本行動



地震が起きたら、どこにいても

▶ すぐに**安全な場所**に身を寄せる

▶ **頭を守って、安全姿勢(しゃがむ)**をとる



安全な場所とは、ものが・・・

1 落ちてこない



2 倒れてこない

3 移動してこない



所です。

2

地震が起きたら

(大きな揺れがおさまるまで)



【共通する行動】



「落ちやすいもの」

「倒れやすいもの」

「移動しやすいもの」などから、素早く離れてしゃがむ。



持っているもので頭を守る。

1 学校にいるとき

① 教室では？

- ・すぐに机の下にもぐる。 ・机の脚をしっかりとさえる。
- ・余裕があったら防災ずきんをかぶる。

② 特別教室では？

- ・すぐに机の下にもぐる。 ・机の脚をしっかりとさえる。
- ・机にもぐれない時は、しゃがむ。そして頭を守る。

③ 体育館では？

- ・窓や落ちてきそうなものから離れてしゃがむ。そして、頭を守る。

④ 校庭では？

- ・建物から離れて校庭の真ん中でしゃがむ。そして、頭を守る。

⑤ ろうか・階段・昇降口・トイレでは？

- ・窓や倒れてきそうなものから離れてしゃがむ。そして、頭を守る。

6部活動の時は？

- ・ 3ページの①から⑤までと同じように行動しましょう。



地震により 落ちてきた茶碗類

(大船渡市教育委員会より)

2 登下校の途中

- ・ 落ちやすいものや倒れやすいもの、移動しやすいものから素早く離れてしゃがむ。
- ・ バッグなどで頭を守る。

● みんなで話し合きましょう。

【学校の中や登下校中で】



「落ちてくるもの」は…

「移動してくるもの」は…

「倒れてくるもの」は…

安全な場所は…

身を守るためにできることはどんなことでしょうか？…

頭部を守るためにはどんなものがあるのでしょうか？…

3 家にいる時

- ・落ちやすいものや倒れやすいもの、移動しやすいものから素早く離れてしゃがむ。
- ・できればテーブルやいすの下にもぐり、テーブルやいすの脚をしっかり押さえ、頭を守る。
- ・寝ている時は、枕やふとんなどを使って身を守る。
- ・できれば窓などを開け、逃げ道の確保をする。

● 家族で話し合しましょう。

【家の中で】



○「落ちてくるもの」は…

○「倒れてくるもの」は…

○「移動してくるもの」は…

◇火を使っている時は
どうする？…

☆停電になったら
どうする？…

4 外にいる時

① 外で遊んでいる時は？

- ・自転車に乗っていたらすぐに降りる。

② 高い建物がある道にいる時は？

- ・建物に入るか、建物から離れるか、素早く判断する。

③ 駅・スーパー・コンビニエンスストアなどにいる時は？

- ・落ちやすいものや倒れやすいもの、移動しやすいものが多いので、素早く離れる。

④ 橋や歩道橋の上にいる時は？

- ・動けるのなら早く渡る。

5 バス・電車などに乗っている時は？

- ・ たななどから荷物が落ちてこないか確認する。
- ・ 座っている時は、手すりや座席にしっかりつかまる。
- ・ 立っている時は、手すりなどにつかまるか、つかまれない時はしゃがむ。

6 山や川、海の近くにいる時は？

- ・ 崩れそうな場所や水のそばからは、できるだけ離れる。



地震による土砂崩れ
(独立行政法人土木研究所より)



津波による被害
(大船渡市教育委員会より)

● みんなで話し合みましょう。



家や学校の周りなど外に出ている時に、大きな地震があった場合、どんな危険が予想されますか？…

その時、あなたはどんな行動をとりますか？…

3

地震がおさまったら



1 学校にいるとき

「おさない」「走らない」「しゃべらない」「もどらない」の避難する場合のきまりを守って避難場所に移動する。

【避難場所への移動】

① 先生がいる時

- ・避難する場合の決まりを守り、**先生の指示に従って**避難する。
- ・自分の教室にいる時は、防災ずきんをかぶる。

② 先生がなくて、放送があった時

- ・放送があった時は、避難する場合の決まりを守り、**放送の指示に従って**避難する。
- ・自分の教室にいる時は、防災ずきんをかぶる。
- ・放送が聞き取れない時は、危険なところをさけて避難する。

③ 先生がいない時

- ・危険なところをさけて避難する。
- ・避難する場合の決まりを守り、避難場所に移動する。
- ・自分の教室にいる時は、防災ずきんをかぶる。

④ 部活動の時

- ・上の①～③の行動に従って避難する。

【避難場所への移動の注意点】

- ・避難場所に行く途中に、いろいろなものが落ちていたり、倒れていたり、移動したりするので、それらを避けながら避難する。
- ・安全が確認できれば、避難にじゃまなものは取り除く。

- ・けが人や助けを求めている人がいた場合は、安全が確保できれば、協力して救助して移動する。

● 確認しましょう。



○学校での避難場所は…

○避難経路は…

○避難場所に行くまでに危ない所は…

● みんなで話し合しましょう。



部活動の時に避難する場合、どんなことに気をつければよいでしょうか？



地震により倒れた靴箱
(大船渡市教育委員会より)

2 登下校の途中

- ・学校に行くか、家に帰るかは、状況を判断して**安全な方**を選ぶ。
- ・自動車や切れた電線のそばに行かないようにする。
- ・近くに体の不自由な人、小学生、お年寄りがいたら声をかけて移動する。
- ・場合によっては、直接、避難所や避難場所に行く。
- ・橋や歩道橋にいる場合は、早く渡る。

3 家にいる時

- ・あわてて外に出ないで、安全の確認をする。
- ・火を使っている場合は、すぐに消す。
- ・家の人がいる時は相談して行動する。
- ・家が安全とは思えない時は、避難所や避難場所に行く。

● 確認しましょう。

○家の近くの

一時避難場所は…

広域避難場所は…

避難所は…

○避難所・避難場所に行く時、安全に通ることのできる道は？

◆家族で下見をしておきましょう！

地域の防災訓練にも参加しましょう！



4 外にいる時

❗ 防災放送を聞き取って行動しよう

❗ 近くにいる人に声をかけよう

① 外で遊んでいる時は？

- ・まず、安全の確認をする。
- ・自分一人や子どもたちだけの場合は、状況を判断して行動する。
- ・場合によっては、家に戻らず、避難所や避難場所に行く。
- ・近くに体の不自由な人、小学生、お年寄りなどがいたら声をかけて行動する。

② 高い建物がある道にいる時は？

- ・窓ガラスの破片、看板など落ちてくるものに気をつけて、建物の中に入るか、建物から離れるか判断する。

③ 駅・スーパー・コンビニエンスストアなどにいる時は？

- ・係員の指示にしたがって避難する。
- ・地下にいる時は、停電になっても、非常灯を確認して落ち着いて避難する。



④ 橋や歩道橋の上にいる時は？

- ・早く渡る。

⑤ バス・電車などに乗っている時は？

- ・停車した後、すぐに飛び出さず、運転手や車掌の指示にしたがって避難する。
- ・近くに体の不自由な人、小学生、お年寄りなどがいたら声をかける。

6 山や川、海の近くにいる時は？

- ・ かけや斜面からできるだけ離れた所に避難する。
- ・ 地割れがあったら近づかないようにする。
- ・ 水の近くから早く離れる。
- ・ 海の近くにいる時は、津波がおそってくるおそれがあるので、すぐに高いところに避難する。
- ・ 近くに体の不自由な人、小学生、お年寄りなどがいたら声をかける。



地震による落石
(独立行政法人土木研究所より)



津波による被害
(大船渡市教育委員会より)

● 確認しましょう。



○家族と連絡がつかない場合の連絡先は…

○家族と連絡がつかない場合の避難先は…

○家に帰ることができない場合は…

◆避難場所は裏表紙に書きましょう！

● みんなで話し合しましょう。



○外にいて避難する時に大切なことは他にないでしょうか？

4

地震の被害



地震では「ものが落ちる」「ものが倒れる」「ものが移動する」「地割れがおきる」「津波がおきる」「山やがけが崩れる」「液状化現象がおきる」



「洪水がおきる」「火災がおきる」など様々な被害がおきます。

東日本大震災では、津波によって多くの方がなくなり、街も大きな被害を受けました。別の大きな地震では、火災や建物の倒壊、山崩れなどで多くの被害がありました。

自分の住んでいる所では、家の壁が崩れるなど、どんな危険があるのか、あらかじめ考えておきましょう。また、住んでいる所ばかりでなく外出先についてもどんなことが起きるか考えておく必要があります。

様々なことを考えておき、いざという時に、あわてず落ち着いて行動できるようにしておきましょう。

MEMO

5

地震への備え



1 学校生活で

学校で過ごす時間は1日の3分の1以上。それだけ地震にあう確率も高いといえます。毎日の生活は、安全に気を配ったものになっているでしょうか。



● みんなで話し合みましょう。

○上の絵から、気をつけたいことを話し合ってみましょう！

① カバン

④ 放送

② 上ばき

⑤ 避難経路

③ 先生の話

⑥ その他

2 家庭で

● 確認しましょう。

○家では、地震に備えてどんなものを準備すればよいのでしょうか？下の欄でチェックしてみましょう。



<我が家の安全チェック> 家族で確認し、○をつけてみましょう。

NO	内 容	1年	2年	3年
1	転倒・移動防止			
2	落下物防止			
3	くつ			
4	水			
5	食料			
6	懐中電灯			
7	携帯ラジオ			
8	燃料+ 予備電池			
9	非常持ち出し品			
10	台所の整理			
11	消火器			
12	ストーブ点検			
13	避難場所			
14	家族の連絡方法			
15	家族の役割分担			
今年の○の数は？				

我が家のスペシャル

1

風水害の基礎知識

台風とは？

- 強風と大雨の両方、またはどちらかをともなった「熱帯低気圧」のこと。
- 熱帯低気圧というのは、北緯5°から20°の間の北西太平洋に発生した低気圧。風速17.2m以上のエネルギーに発達したとき「台風」とよばれるようになります。

集中豪雨とは？

- せまい範囲の地域に、突然降る「滝のような雨」で、しかも確実に予測することが困難な短時間の大雨現象。



1 風水害の主な種類

風や雨などがもたらす災害（風水害）にはいくつかの種類があります。それぞれの被害の特徴は次のとおりです。

- ①洪水害… 河川の流量が異常に増加することにより、あふれて浸水する外水はん濫と、下水道の処理能力を超えるほどの大雨が降ったときに、マンホールなどから水があふれることにより浸水する内水はん濫があります。

②土砂災害…

がけくずれ・山くずれ

がけや山の斜面が急激にくずれ落ちる現象です。地震によっても起こります。がけからの水がにごる、がけから小石が落ちてくるなどの前ぶれがあることがあります。

土石流

谷や斜面にたまった土砂や岩石が一気に押し流される現象です。破壊力が大きいので、広範囲に大きな被害が出ます。山鳴りがしたり、雨が降り続けているのに川の水位が下がったりすることがあります。

地すべり

斜面の土壌が比較的ゆっくりとすべり落ちる現象。一度に広い範囲で発生し、地面にひび割れができません。がけや斜面から水が吹き出すことがあったら注意が必要です。

- ③ 風 害** … 台風・低気圧による強風（暴風雨）・竜巻やダウンバースト、塵旋風じんせんふうなどによる突風で、倒木や屋根がわらなどの飛散物による被害のことで。建物や人体への被害のほか、飛行機や列車の運休など交通への被害があります。

※ダウンバースト：積乱雲の底から爆発的に吹き下ろす気流およびこれが地表に衝突して吹き出す破壊的な気流をいう。

※じんせん風：学校の運動場や土がむき出しになった荒地などに起こる、小規模なうずまき状の風。

2 集中豪雨の危険性

① 増加する集中豪雨

- 最近（平成14年～24年）と約30年前（昭和51年～61年）を比較すると時間100mmの豪雨の年間発生件数は約2倍に増加しています。



② 集中豪雨による災害や事故の危険

- 集中豪雨が発生した場合、自分のいる場所がどのような災害や事故が起こりうるかを、事前に知っておくことが重要です。

注意が必要な場所	危険性
地下施設（地下街など）	河川などからはらんした水が流れ込む。
家（地下室、地下ガレージ）	下水道や側溝などからあふれた水が流入し、場合によっては水没する。
道路（歩行者・自転車）	路面がかん水し道路と側溝の境目がわかりにくくなり、転落する。
道路（自動車）	路面がかん水し、走行不可能になり場合によっては水没する。
河原・中州（敷策・つり）	急な増水で流される。中洲に取り残される。
下水道管・用水路	急な増水で流される。
山中（登山）	けい流の急な増水で流される。

③ 集中豪雨の被害の特徴

- 短時間のうちに強い雨が降ると、河川、溪流、下水道管、用水路などでは、雨が流れ込むことによって、数分から数十分で危険な状態になる場合があります。
- 河川などでは、自分のいる場所でわずかしが雨が降っていなくても、上流で降った強い雨が流れてくることによって危険となる場合があります。相模川のような大きな川でも、ダムが放流すると1時間で数10cmの水位上昇となる場合があります。

2

避難の心得



1 情報を集めましょう。

● 注意報・警報

各地域の住民に注意をよびかけ、災害による被害を最小限に食い止めることを目的に発表されます。注意報は災害が起こるおそれがある時に、警報は重大な災害が起こるおそれがある時に発表されます。

注意報

[16種類]

大雨注意報、洪水注意報、
大雪注意報、強風注意報、風雪注意報、
波浪注意報、高潮注意報、濃霧注意報、
雷注意報、乾燥注意報、なだれ注意報、
着氷注意報、着雪注意報、
融雪注意報、霜注意報、
低温注意報

警報

[7種類]

大雨警報、洪水警報、
大雪警報、暴風警報、
暴風雪警報、波浪警報、
高潮警報



● 気象情報

気象情報は注意報や警報に先立って注意をうながしたり、注意報や警報が発表されたりしたあとの補足や防災上の注意を解説する場合などに発表されます。

※降雨が災害の発生につながるような、まれにしか観測しない雨量であるときには『記録的短時間大雨情報』が発表されます。

● 雨の強さと降り方

[気象庁ホームページより引用]

1時間雨量 (mm)	予備用語	人の感じるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて	災害発生状況
10以上 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞けない	地面一面に水たまりができる		この程度の雨でも長く続く時は注意が必要
20以上 30未満	強い雨	どしゃ降り				ワイパーを速くしても見づらい	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる
30以上 50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	傘をさしてもぬれる		道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要 都市では下水管から雨水があふれる
50以上 80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる	覆っている人の半数くらいが雨に気がつく	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある マンホールから水が湧出する 土石流が起こりやすい 多くの災害が発生する
80以上 ～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。					雨による大規模な災害の発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要

● 水位情報

はん濫発生情報… はん濫が発生したときに発表される。

はん濫危険情報… 水位観測所の水位が、はん濫危険水位に達したとき発表される。

はん濫警戒情報… 水位観測所の水位が、一定時間後にはん濫危険水位に到達が見込まれるとき、あるいは避難判断水位に到達し、さらに水位上昇が見込まれるときに発表される。

はん濫注意情報… 水位観測所の水位が、はん濫注意水位に達し、さらに水位上昇が見込まれるときに発表される。

●避難情報

避難勧告… 避難のための立ち退きをすすめる。

避難指示… ただちに避難のために立ち退かせる。

※情報は、テレビ、ラジオ、インターネットなどで入手することができます。また、相模原市ではメールでの情報提供【登録制】も行っています。

2 避難所までの注意箇所を確認しましょう。

水路の周辺… 浸水時には水路の場所がわからなくなり、流される危険があります。

地下(歩)道… 浸水時には周辺から水が流れ込む危険があります。

がけ… 大雨が降ると崩れるおそれがあり危険ですので、近づかないようにしましょう。

3 避難しましょう。

！避難行動は早めに！

テレビ・ラジオなどで、雨の降り方や河川の増水状況を把握し、早めに行動を始めましょう！家族や近所に要援護者(高齢者や障がいのある方)がいる場合には避難に時間が必要なので、助け合いましょう。



！車はダメ！

浸水により立ち往生してしまうことや、緊急車両の通行の妨げになることもあるので、車での避難はやめましょう。

！火元確認！

避難する前には、ガスの元栓や電気のブレーカーなど火の元の確認をしましょう。

！一人では行動しないで！

避難するときは必ず2人以上で行動しましょう。避難のときはロープで身体を結び合い、棒などで安全を確認しながら避難しましょう。



辺りが急に暗くなったら注意しましょう！

辺りが急になると、突然強い風が吹いたり、竜巻が起こったりする場合があります。そのような時には、がんじょうな建物にすぐに避難しましょう。

また、雷の危険もあるので、その場合も建物の中に入りましょう。



避難することが危険な場合も！

水深が腰まであるような場合に避難することはかえって危険です。上階へ移動し、救助を待ちましょう！



4 どこに避難すればよいのでしょうか。

相模原市では小・中学校などを避難所として指定しています。避難が必要な場合には、避難勧告・指示とともに開設した避難所を発令しますので指示に従ってください。また、河川の近くの避難所は浸水する地域もあり、臨時に別の避難所を開設する場合がありますので、あらかじめ洪水ハザードマップで場所を確認しておきましょう。

5 こんな場合にも注意を！

アウトドア派も注意！

キャンプなどアウトドアでのレジャーは自然の中で行うため、天候が悪化したときに思わぬ災害にまきこまれる危険性があります。



川がなくても起こる都市型水害

都市部は、地面がアスファルトにおおわれているため、大量の雨が集中して降ると、下水道の排水機能が追いつかず逆流するなど、川がなくても浸水が発生する場合があります。

最近では地下空間の利用が増えていることから、地下街への浸水やビルの地下駐車場などへの浸水被害が発生しています。



第3章 災害への備え

1

応急処置の大切さ

災害時には様々な被害が出るのが予想されます。可能な限りの備えを進めていく必要があります。特に、生命や身体の安全は最優先で守るべきものであり、そのための方法を一人ひとりが知っておくことは大変重要なことです。

その一つとして、万が一の時に役立つ応急手当の方法を身に付けていくことは社会の一員としてとても大切なことと言えます。

例えば、災害時に消防車や救急車を呼んだとき、交通機能が分断されていて現場にすぐにたどり着けないような場合、負傷者の近くにいる人たちが協力し、素早く適切な手当をすることができれば、その人の生命を救うことができるかもしれません。

応急手当は正しい知識と方法を身に付ければ、誰もが行うことができます。やけどや骨折などの手当とともに意識のない人の応急手当、人工呼吸、胸骨圧迫（心臓マッサージ）、止血の方法などを身に付けるようにしましょう。また、そばにいて励ますことも負傷者の不安を取り除き大きな力となります。

*具体的な手当の方法は保健の教科書などで確認しましょう！



2

119番通報のポイント



まず落ち着いて電話をすることが大切です。

消防局：「火事ですか。救急ですか。」

通報者：「火事です。〇〇が燃えています。」

「救急です。急病人(ケガ人)です。」

※火事か救急かははっきりと伝えます

消防局：「名前と住所(場所)は。」

通報者：「〇〇です。〇丁目〇番地です。」

消防局：「近くの目標物は。」

通報者：「△△ビルの近くです。」

消防局：「使っている電話の番号は。」

通報者：「〇〇〇-〇〇〇〇です。」

※その他必要なことは、係員が聞きます。



【携帯電話からの119番】

- ・原則的には直接相模原市消防局につながりますが、隣接する市町の消防本部につながる場合があります。あわてずに係員の指示にしたがって対応してください。

携帯電話などからの通報は、次のことに注意してください。

- ・通報後も電源を切らないこと。
- ・なるべく現場から離れないこと。
- ・通報地点を特定するための発信地表示システムが使えないため、できるだけ固定電話や公衆電話を使うこと。

3

相模原市のとりくみ



相模原市では、市民を地震から守り、被害を少なくするために、「災害対策本部」において、次のような活動をするようにしています。

- 1 災害情報の「収集伝達」をします。
* 必要に応じて「ひばり放送」などでお知らせます。
- 2 「人命救助・消火活動」をします。
- 3 「避難所」を小中学校などに開設します。
「拠点救護所」は、相模原メディカルセンターと相模原南メディカルセンターに開設します。
「救護所」は市内の小学校など30か所に開設します。



指定されている救護所

向陽小、清新小、横山小、中央小、星が丘小、光が丘小、旭小
相原小、淵野辺小、共和小、大野小、大沼小、谷口台小
南大野小、大沢小、田名小、上溝小、麻溝小、新磯小、相模台小
桜台小、相武台小、東林小、上鶴間小、川尻小、串川小
青野原小、桂北小、藤野小、相模原西メディカルセンター

- 4 「飲料水」を確保して、給水車などで水を配ります。
- 5 「食料」や「毛布」などを配ります。
* 防災備蓄倉庫を設置し保管しています。



4

災害情報を得る方法

1 「ひばり放送」

- 緊急を要する情報は、相模原市の「ひばり放送」で伝えられます。
- 屋外放送塔から流れている「ひばり放送」の内容を「ひばり放送テレホンサービス」でも聞くことができます。☎0180-994-839

2 「エフエムさがみ」 「テレビ神奈川 (tvk)」

- 相模原市の災害情報は「エフエムさがみ (83.9MH)」や「テレビ神奈川 (tvk) の@ボタン」でも知ることができます。



3 「防災メール」

- 「防災メール」を登録すると、ひばり放送や防災情報が配信されます。(詳細は市のホームページをご覧ください)



保護者のみなさまへ

地震が多い日本では、地震に対する研究も進み、防災対策も年々充実したものになってきています。しかし、どんなに科学が進歩しても、地震を正確に予知したり、地震そのものをなくしたりすることはできません。

平成23年3月11日、午後2時46分、マグニチュード9.0の激しい地震が東北、関東地方をおそい1万5千人以上の方が亡くなる大きな被害を受けました。また、近い将来、東海地震をはじめ、南関東地域で直下型の地震が起きることが心配されています。

また、近年はゲリラ豪雨や竜巻など、風水害の被害も全国各地で見られるようになってきました。

これらのことから、相模原市でも防災対策のさらなる充実や強化を図るとともに、緊急時の対策について協議を進めています。

ご家庭でも「家族防災会議」を開き、いざという時にどうしたらよいか十分に話し合ってくださいとともに、この冊子を役立てていただければ幸いです。

大規模 震災 が起きた時



震度5強以上の時は休校となります。学校にいる場合は、保護者の方が迎えに来るまで子どもたちは学校にいます。

【東海地震情報発令時の対応基準】

情報	対応内容	ひばり放送
<p>①調査情報 東海地震の観測データに異常が現れているが東海地震の前兆現象の可能性について直ちに評価できない場合の情報</p>	授業を続けます。	
<p>②注意情報 東海地震の前兆現象の可能性が高まったと認められた場合の情報</p>	<p>学校は休校となります。 学校にいる場合には、保護者の方が迎えに来るまで、子どもたちは学校にいます。</p>	<p>「ピン・ポン・パン・ポン（ド・ミ・ソ・ド）」のチャイムが2回なってから、放送があります。</p>
<p>③予知情報 東海地震が発生する恐れがあると認められた場合の情報</p>		
<p>④警戒宣言 内閣総理大臣が強化地域に発令するもの</p>		
解除	解除されるまで 休校 となります。	

風水害

地震

もしもの
時は？

緊急避難場所

もしもの
時は

避難場所は
ココだね



みんなで
話し合って
みましょう。

順 番	避難場所等
1 番目	
2 番目	
3 番目	

毎年、家族の人と避難場所等を確認しましょう。

平成 26 年度版 防災ガイドブック

災害 — その時 わたしたちは —

平成 10 年 3 月 31 日 初版発行

平成 26 年 5 月 8 日 部分改訂版発行

発 行 相模原市教育委員会

相模原市中央区中央 2-11-15

電話 042-754-1111

編 集 相模原市立総合学習センター

相模原市中央区中央 3-12-10

電話 042-756-0290